

# 楽々 内視鏡

## 概要

高齢化社会、ストレス社会などといわれる現代社会において、人々の健康に対する関心が高まる一方、自分で手軽にできる健康管理の範囲は限られているのが現状です。多忙であることから、健康診断も簡単なものですませてしまい、病気の早期発見につながらないケースも多いのです。

内視鏡を用いた検査は確実性が高く、病気の発見にとっても効果的です。しかし、現在この検査は手軽にはできない種類のものであり、その意味では十分に活用されていません。

そこで、この内視鏡を、なんとか手軽にできないだろうか？という焦点で、この企画を立案しました。

## 内視鏡の現状

### 発展を見せる内視鏡

- その場でポリープを除去するなど、すぐに病気の治癒へつなげることができま
- カプセル型カメラの開発で飛躍的な進歩がみられる。

### 現在の内視鏡の問題点

- 仕事を休んで1日かかり、ということが少なくない。  
治療をしない場合でも安静が必要であるし、とても手軽とはいえない。
- はずかしい。  
まず、大腸内視鏡などはとくに、検査を受けること自体物怖じしてしまいます。体内をその場で医者にみられているというのもけっこうはずかしいものです。
- くるしい。  
消化管系はとくに、のどからカメラを入れるため、くるしくて体に負担をかけ、精神的ストレスにもなります。現在では鎮痛剤や麻酔などの処置では、負担がいくらか軽くなる程度です。

このように、現在、内視鏡は“役に立つけど、たいへん”なものであるといっ

# 内視鏡に IPv6 を導入!!!

## ・・・その活用法と利点

- IP アドレスを割り振った内視鏡機器を使用することで、遠隔操作による内視鏡検査および、現在のカプセル内視鏡で不可能である治療までもが可能。検査だけならば、自宅にいながらも内視鏡検査を受けられるようになることが期待できる。
- 大掛かりな機器がなく、医者に見られている感もない。はずかしくないので、気楽に検査を受けられる。結果、個人の健康管理に大きな効果を期待でき、全体の医療負担の軽減につなげることができる。
- IP の使いまわしがなく、1つ1つの機器に固有のアドレスを割り振ることができる v6 では、医療ミスを防ぎ、プライバシー保護においても安心できる、信頼のある医療を実現できる。

